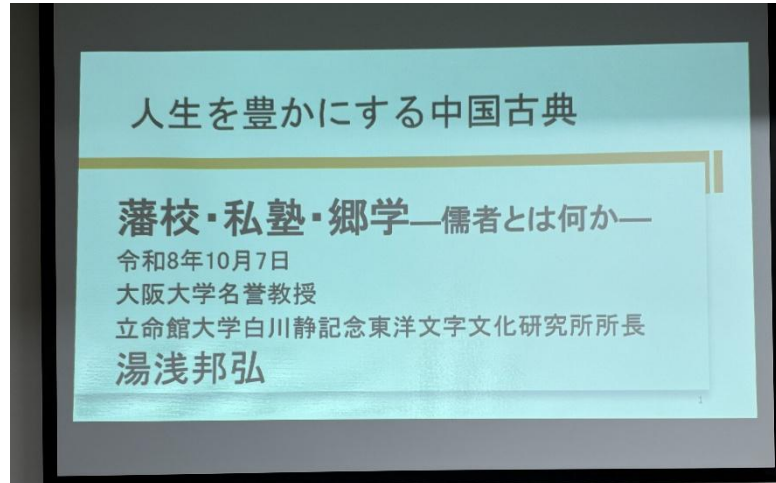


第7回 藩校・私学・郷学—儒者とは何か—

「人生を豊かにする中国古典—学びなおす歴史と文化」

講師 湯浅邦弘先生 2026.10月7日



すっかり涼しくなって、二学期2回目の講義。

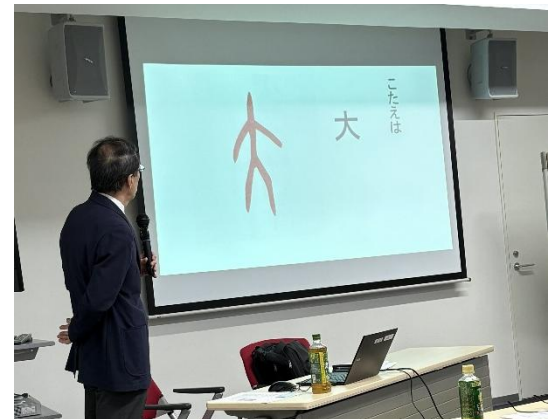
昨日ONCC総合文化でも湯浅先生の講義あり、私は二日連続の講義となり、とても勉強になりました。

先生は白川博士のご縁で、福井で漢字の講義をすべく福井に出向かれた。聴講性は大人と小学生。子供たちが興味を持って聞くように問答形式で授業された。

① 古代中国の学校

古代、中国の学校は孔子の温故知新・集団の学習「杏壇礼楽」（きょうだんれいがく）から漢代、唐代、科挙を経て明代までの興味深い説明を受けた。

特に漢代は儒教が国の学問で人民への影響が大変大きかったのではと思う。



② 古代から中世日本の「学校」

古代では特権階級のみによる漢籍。大宝律令による国学としての大学寮。平安時代の勧学院。僧侶・学者最古の足利学校。庶民対象の「種智院」と続く。

③ 湯島聖堂（昌平坂学問所）

徳川綱吉が儒学振興のため湯島に聖堂を創設。

其れ以前に家康は漢の劉邦の故事を基に文治主義を採用。



先生の解説で、武力で国を打ち立てても、その国はまた武力で覆される。家康も、また劉邦もこれを理解し、武力ではなく文治主義で国の運営に当たり、長期間の支配者となった。

思うに現在の国際社会は米国・ロシア・イスラエル・中国などは武力で他国に戦争を仕掛け、国際社会を支配しようとしているが、これでは平和な国際社会は創れない。各国リーダーは儒教精神を学び文治主義で国家運営に当たってもらいたいものだ。

④ 藩校・私塾・郷学・その他の学校

これらの学校が湯島聖堂らに続くが、古代からこれまでの学校の存在意義は極めて重要と思う。日本は西洋列強に植民地化されなかった。さらに明治維新で富国強兵を推し進め西洋諸国と肩を並べるまでに追いついたのは、日本には古代から学校制度が存在し、教育が極めて重要視されてきたからだと思料する。

文責：N. O.